■大森房吉　　地震学者。地震を統計的に分析して，大きな業績を残した。″日本地震学の父″。
おおもりふさきち
明治維新・・1868＝　　越前国福井城下の新屋敷百軒長屋で，下級武士大森藤輔・幾久の5男3女の末子に生まれる。

軽輩の家で，兄弟も多く，貧しい環境に育つ。

明治6年政変 1873＝ 5歳：
佐賀の乱・・1874＝ 6歳：旭小学校に入学，

三つの反乱・1876＝ 8歳：この年，工部省工学寮のお雇い外国人教師になるイギリスの鉱山学者ジョン・ミルンが来日，直後に地震に遭遇して驚愕，近所の人たちから冷やかされるが，近代地震学の祖として，第一歩を踏み出している。
西南戦争・・1877**＝ 9歳：**子供たちの将来を考えてか，突然一家で徒歩で上京し，日本橋の官立阪本小学校に転校，

・・・・・・1880＝12歳：ミルンの提唱により，世界初となる日本地震学会が発足し，副会長になったミルンが歴史的演説。
明治14年政変1881＝13歳：卒業し，高橋是清が初代校長を務める**_共立学校(開成中学)に入学。**
_神童ぶりを発揮，抜群の数学，英語はじめ，全ての学科で首席を争い，
岩倉具視没・1883＝15歳：**_最優秀で卒業し，東京大学予備門本学に褒賞給費生として入学。**
秩父事件・・1884＝16歳：次学年に進級し，

帝国大学始・1886**＝18歳：**この年，帝国大学令が施行になり，理科大学初代学長に菊池大麓が就任。
国民之友始・1887＝19歳：**_帝国大学理科大学に進学し，物理学を専攻，**
初の対等条約1888＝20歳：菊池大麓に期待されて，特待生として，2年に進級，
帝国憲法発布1889＝21歳：特待生として，3年に進級，
帝国議会始・1890＝22歳：首席で卒業。菊池の意向で，給費生のまま**_大学院に進み，地震学を専攻。ジョン・ミルンの指導を受け，**
大津事件・・1891＝23歳：**_助手になった直後，マグニチュード8.0の濃尾地震が発生，物理学科に進学してきた今村明恒を現地に派遣して，その余震を研究，今村が地震学を専攻する契機になり，以後，両者が対立する因にもなるが，**
大本教・・・1892＝24歳：**＊地震学取調となり，菊池が自ら発起人になって建議し発足した，文部大臣直属の研究機関{震災予防調査会}に，錚々たる諸分野の教授陣に交じって，師ミルンとともに出席。日本人初の実用地震計の試作に成功，**
郡司千島探検1893＝25歳：講師になり，天谷こちよと結婚。**_シカゴ万博に展示され，世界の注目を集める。**
日清戦争始・1894＝26歳：ジョン・ミルンが地震計製作。**＊{震災予防調査会}報告書に「余震に就きて」を寄稿し，″大森公式″を発表，最前線に躍り出る。**
日清戦争終・1895**＝27歳：_ジョン・ミルンが退任，帰国後，恩師の後を追うように，ヨーロッパに留学，**
白馬会・・・1896＝28歳：**_地震学教室初代教授関谷清景が死去。英語の論文「地上と地中の強弱関係」を発表して，**
八幡製鉄始・1897＝29歳：**_帰国。関谷を継いで，地震学教室主任教授になる。以後，{地震予防調査会}幹部として，地震学を主導。**
子規句歌革新1898＝30歳：**_世界初の連続記録可能な″大森式″地震計を開発。次々と論文を寄稿し，″大森絶対震度階″も発表。**
Bushidou・・1899＝31歳：**＊″大森式″地震計は，アラスカ沖大地震の揺れを正確に捉え，初期微動のP波と，主要動のS波の特性を詳細に描き出し，世界の地震学者を驚かせる。**
ﾋﾟｱﾉ国産化・1900＝32歳：中央気象台気象観測練習会の地震学講授，
田中正造直訴1901＝33歳：今村が助教授になる。**_{ネイチャー}に「日本の地震学」を寄稿したジョン・ミルンが，日本を代表する地震学者と紹介するまでもなく，没するまでに{震災予防調査会}欧文紀要掲載の論文の9割を書くことになる。**
日露戦争始・1904**＝36歳：**
日露戦争終・1905＝37歳：**_今村が'50年内に東京で大地震発生'を警告する記事を{太陽}に寄稿，日本初の「地震学」も出版して，**
満鉄発足・・1906＝38歳：帝国学士院会員に推挙される。**_{東京二六新聞}{萬朝報}などが煽って，センセーションとなり，静めるべく，{太陽}に，完全否定の記事を寄稿。サンフランシスコ大地震が発生するや視察に向かい，現地紙に，「世界随一の地震学者が太鼓判，次はペルーかチリ沖」の記事，直後に現地で大地震が発生し，絶大な評価。**
韓国反日暴動1907＝39歳：**_それまでの論文をまとめ，{新世紀講話叢書}の一冊として「地震学講話」を出版，主著になる。**
1908＝40歳：勅旨により，帝国学士院会員。
伊藤博文暗殺1909＝41歳：妻が猩紅熱で死去。
韓国併合・・1910＝42歳：小川ヤスと再婚。**_スウェーデン皇帝より北極星第三勲章。北海道の有珠山噴火の際には，自ら試作した地震計を設置して詳細な観測を行い，世界で初めて火山性微動を記録，**
大逆事件判決1911＝43歳：**_有珠山論文を発表し，噴火予知のための恒常的観察を行う火山観測所の設置を提言。**
明治天皇没・1912＝44歳：この年，ドイツのウェゲナーが「大陸移動説」を発表。
大正政変・・1913**＝45歳：**ジョン・ミルンが死去。
第一次大戦始1914＝46歳：桜島周辺で小さな地震が多発している旨の報告を受け，注意を促す電報を打とうとした矢先に，大噴火。海上から視察し，鹿児島市内には危険が及ばないとする見解を発表して，市内は平静を取り戻す。**_スウェーデンのノーベル賞委員会から審査論文の提出を誘われるも，多忙のため，応えられず，**
21ヶ条要求・1915＝47歳：**_京都御所での大正天皇即位の大礼に，菊池大麓に従い出張中，上総の東・南部で群発地震が発生，今村が代わって談話を発表し，問題化。参列を取り止めて急遽帰京し，叱責するも納得せず，論争が再燃。**
ロシア革命・1917＝49歳：**_菊池が急逝，後を継いで{地震予防調査会}会長。以後，顕著な功績者への研究補助金を毎年下賜され，**
本格政党内閣1918＝50歳：**_初期微動継続時間と震源距離の関係をシンプルな数式で表現した″大森係数″を発表，″大森公式″と呼ばれ，世界の地震学者の間で広く知られている。**
大暴落・・・1920＝52歳：**_論文「東京将来の震災に就きて」を発表，**
原敬首相暗殺1921＝53歳：万国地震学協会の設立委員となり，
水平社結成・1922**＝54歳：**第1回総会。フランス政府より勲章。**_「本邦各方面に起こるべき今後の地震」其一から三まで発表，**
関東大震災・1923＝55歳：**＊第二回汎太平洋学術会議副団長として，オーストラリアに赴いた際，同行者に，日本で次に大地震が起きるとすれば，東京湾の近くであることを話し，周囲が帰国を勧めるほど身体不調のなか，シドニーの会議に出席後，天文台に招かれ，ドイツから新たに購入した地震計の前に立った途端に揺れ出した針を見て，まさに予想していた震源が東京湾頭の大地震であることを指摘し，急遽帰国する船中，脳腫瘍で倒れ，横浜港に入港後，船室に見舞いに来た今村に謝罪，東京帝大付属病院に搬送され，苦悶にうちひしがれ，まもなく昏睡状態に陥り，没した。**

上山明博「地震学をつくった男・大森房吉 幻の地震予知と関東大震災の真実」，Wikipedia，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，「目でみる日本人物百科」。TUP選書「君子未然に防ぐ・地震予知の先駆者今村明恒の生涯」で補足，